

「財政危機」を確認

再建計画が急務

財政再建 審議

「このままでいくと南国市の財政は最悪の状態になる」……財政の前途に不安をもつ南国市の執行部は、十一月十一日、財政再建審議会（松本二郎会長、議員十五名で構成）に、これまでの経過を報告して、再建案樹立への審議会の協力を要請しました。

執行部の経過報告のあらましは次のとおり。

□50年度末赤字十八億二千万円

一般会計三億七千万円―実際は八億円が見込まれていたが、市有林を四億三千万円で土地開発公社に売った（将来買いもどさなければならぬ）。南国市の財政規模では、赤字が四億円を上回ると事業や借入れに悪影響が出るおそれがあるため、その範囲内に抑え、残りの赤字を公社に肩代りさせた。二つの開発公社への未払金合計十四億五千万円。

□赤字発生の原因

ほとんどの市と同じように、財政構造そのものの悪化に加えて、能力以上に各種事業をしてきた。類似市と比べると、生活保護な

どの扶助費、補助費等、借金の元利支払い額―公債費が高い。

□51年度からの再建

一般会計赤字三億七千万円を、



毎年度一億円解消を目標に、市民負担増と人件費を主とした歳出減に努力した。一方、両公社への支払いは53年度から年二億円のペースで行ってきたが、56年度にくずれそう。

□再建のカギ―二つの開発公社

46年と48年に相ついで設立された二つの開発公社は、いずれも公共用地の先行取得が主なものでた

たが、結果的に南国市の財政能力をこえた取得や事業がされたため多額の「借金」として残った。

この難題を解決するためには

- ①利用目的のない土地の早期処分
- ②南国市からの支払い

□目白押しの大型事業

財政の圧迫要因のもう一つの柱は、「大型事業」。し尿処理場、下水道、医大周辺の都市計画、ちり焼場、吾岡山公園化、パークタウン、高速道路インターチェンジなどがまわっています。

□現在の情勢

一般会計の赤字は消えたものの、公社への支払いや事業実施で支出が多くなる。収入面では、行革などによる伸びみやみが予測されるため、第二次ともいえる再建計画がどうしても必要。……以上、「赤字の周辺」が報告されました。

審議会委員から……

○具体的な再建案を早く見たい。論議はそれから。
○固定資産税を増税（二億六千万

円）しても滞納（一億円）が多いのでは効果が少ない。

○51年度再建の時を思い出せ。もうこれ以上の増税はできない。そうなる支出の減しかない。

○情勢は、行革もからんで、51年度よりずつときびしい。57年度予算編成も近づいたが、本予算はむつかしいだろう。これからの事業の見直しが必要だ。

……などの意見がでて、とにかく再建は必要……各委員が勉強しようということ、この日は終わりました。

職員組合ともこん談

十一月三十日、審議会は、財政に強い危機感を持つ職員組合（高知県市町村職員労働組合南国市支部）から「再建」についてのこん談要請に応じ、要望をきくとともに意見交換を行いました。

組合から……

□組合がどうして再建に関係するのかという意見もあるが、今のままでいくと、「市民にも職員にも好ましくないことになる」――「再建はどうしても必要」との考えから大きな関心をもっているし、「再建」は、実際に仕事をしている我々職員の仕事でもあります。

□公社への毎年二億円の返済が、二年目の56年度でくずれそうだし、今後そのペースでいけるとい保障はない。

□南国市の財政能力以上の計画がされている。……このままでいくと①赤字再建団体入り②借金が増えすぎて、市民生活に直接関係する事業ができなくなるなどの心配がある。

□むだを省くことがまず必要。その意味から職員の増は最少限にして効率的な配置を。支所の廃止も検討、実施する時期です。

□審議会が市長をせかして、早くはつきりした見通しをたてるようにしてもらいたい。

審議会委員から……

□市民の負担増のない再建―収入増と支出減を。
□財政構造と公社の徹底見直しを。
□むだを知っているのも、それに抵抗するの役人。人件費をはじめ、あらゆるムダを省け。

□固定資産税の引き下げは財政上むつかしいものの、市民の要望は強いので検討すべきだ。

□議会は予算案などを審議するところ。まず、再建案を見ないと……との意見で、双方とも「できるだけ早く再建案を建てなければならぬ」ことを確認しました。出席していた吉本助役も「早急に策定します」と約束しました。

当面の課題は、市長がいつ、どんな内容の「再建案」を出すにかかっています。